（本號八面）　（明治三十一年十二月十一日　第五種郵便物認可）　明治二十七年四月四日　第三千九百三十三號　（定價金二錢五厘）

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

明治廿七年四月四日　水曜日
舊暦甲午二月廿九日（丙子）
日出午前五時二十五分　入午後六時三分
月出午前四時二十六分　入午後四時二十六分
滿潮午前四時四十五分　午後四時四十四分
（西暦一千八百九十四年）　九十四年
年始より　二百七十一日
年末まで

名家洋畫十二ヶ月

近來西洋の畫を學ぶ者寡からず其道に達し其技に熟し頗る見るべきの作ありと雖も世人皆く此美術の進歩如何を知らず斯道の爲め人々の遺憾とする所なり由て時事新報社は此美術の進歩を廣く世人に紹介し且つ其奬勵の一端に供せんが爲め今般

東京府下の十二名家

を撰び之に十二箇月を割當て其長する所に從て每月其月に因ある洋畫の揮毫を請ひ之を美麗なる彩色石版刷に附し每月初旬時事新報の附錄として平生の愛讀者に配布する事と爲し本月を以て始め來年三月に至りて終る此十二箇月の洋畫、孰れも名家の手に成りたるものなれば四季折々に室内の裝飾として大に讀者の心目を樂しめ且つ我國此美術の進歩を察するの具たるべし

明五日第一附錄

十二名家の揮毫を石版に印刷し每月附錄として時事新報の愛讀者に配布する其第一回は明五日を以てすべし其畫題並に畫家は

櫻狩　淺井忠氏

にして春風駘蕩の好時節、此畫に對すれば身は忽ち百花爛熟の中に入りて魂飛び魄躍るの想ひあるべし明日の新報、臨時の購讀者よりは定價五錢（東京市外は此外に郵稅壹錢）を申受く可し

時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價（府外遞送には此他後に掲ぐる遞送料を要す）

一號　貳錢五厘○一箇月　前金五拾錢○三箇月　前金壹圓四拾五錢○六箇月　前金貳圓八拾五錢○一箇年　前金五圓六拾錢○月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ）

●前金　一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

（一）日本國内並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津

一箇月　金拾三錢

（二）南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國

一箇月　金六拾錢

（三）北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋

一箇月　金三拾錢

（四）香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濱剛

一箇月　金六拾五錢

（五）露領浦潮斯德、清國諸港

一箇月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行　二・付	十三錢	十一錢	十錢宛

●廣告料定價　時事新報の廣告料は總て定價の通り申受くる筈なれども取次人の内には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絕する事もあるべき筈に付豫め廣告依頼者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと雖から ず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て新類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんみとを請ふ

時事新報社に達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

汽車發着時間の改正に就て

聞く所に據れば鐵道廳にては近々汽車發着の時間を改正して東京横濱間及び大坂神戸間は一三回の發車度數を增し東海道の通し汽車は是れ迄の二十時間を短縮して十九時間と爲す筈なりと云ふ從來官設鐵道の執務に就ては世間の非難少なからず殊に京濱間の發車度數の少なきが如き一般に不便を感ずる所にして我輩に於ても屢ば當局者の注意を促したるみとあり今回の改正は或は其邊に心付きたるが爲めならんなれども京濱間の發車に僅に二三回の增發のみにては到底世間の希望を滿足せしむるみと能はざる可し現在の度數は十七回にして一回乘りおくるゝときは一時間餘を空しく費さゞるを得ず即ち不便を感ずる所にして二三回の增發も全く增さゞるに勝るみと勿論なれども今日京濱間に於ける商賣人事の交通繁劇なる點よりするときは少なくとも每十分若しくは十五分間に一回の發車は欠く可らず或は他の線路ならんには實際に許さゞるの事情もあらんなれども京濱間には既に複線の設あり殊に乘客貨物の多きは全國に其例を見ざる所にして隨て收益も夥しきみとなれば苟も增發の必要を感ずるときは明日にも之を行ふみと難からず當局者は何故に決斷せざるや僅に二三回の增發にては實際に改正の效なかる可しと我輩の敢て斷言する所なり又東海道列車の時間、二十時間を十九時間に改めて僅に一時間を短縮するが如き強劃ふるに足りざるの改正と云はざるを得ず今の東海道列車の速力は一時間平均二十哩の速力に二十哩とは最も遲緩なる例を見ざる所なりと云ふ或は廣軌鐵道に比較して狹軌鐵道に速力の遲緩は免れざるのみれども假令ひ狹軌なればとて一時間三十哩の速力は實際に差支ある可らず或は三十哩の速力を見るは實際に差支ある可らず或は三十哩の速力を見難からざれども今日の如き單線にては假令ひ速力を增すも双方列車の行違ひの爲めに空しく時間を費すの損

念もあれば今の速力にて丁度適當なりと云はんか果して然らば假りに行違ひの要點を複線にするなり又は全線を複線にするなり其不都合は如何樣にも改良するの道ある可し其邊には敢て注意を加へずして僅々一時間の短縮を以て改正と稱するが如きは我輩の感服せざる所なり或は又速力を增すなり複線を設るなり素より希望する所なれども何分にも費用の點に於て許さゞるを如何せんとの說もなきに非ず當局者の每度口にする所にして一應理由あるが如くなれども我輩の所見は全く之に反するものなり凡そ日本の鐵道中にて東海道の線路の如く收益の多きものはある可らず速力を增し複線を設け一般の準備を充分にして收支相償ふ可きは明白なれども當局者の計算に於て然らずと云はゞ其れは官の事業にして無益に費す所多きが爲めに外ならず若しも其營業を人民の手に一任して自由に改良せしむるに於ては萬般の計畫を充分にして收支相償ふのみならず然かも大に利益あるの實を擧げんみと我輩の僞に請合ふ所なり抑も日本の鐵道事業は今日尙ほ匆々にして一般の私立會社の如き百事官設鐵道を模範として之と共に進退するの風なきに非ず即ち官の當局者たるものは自から此邊の意味を體して假令ひ實際には多少の損失あるとも全國の模範として若く改良の實を示す可き筈なるに今日の有樣にては全く營業一偏の精神にして世間公衆の不便に頓着するみとなし此點より見るときは東海道の如き特に有利の線路を官の手に專有して人民と利を爭ふものなりと云はるゝも辯解の辭はなきみとならん當局者にして若しも悟る所あらば大に改良の實を擧げて一般の希望を滿足せしむ可きなり

雜報

●神武天皇御例祭　昨三日は神武天皇御例祭に付宮中に於て午前十時御親祭を執行せられ聖上兩皇后三陛下皇太子殿下の御拜御代拜等終りて儀式上參列の親王大臣勅任官麝香、錦鶏兩間祗候宮内省勅奏判任官へ順次拜禮を仰付られ又有爵華族文武奏任官準奏任官同待遇の輩非役從八位以上同勳八等以上神佛各宗派管長門跡寺院住職及び判任官等は正午十二時より午後二時迄に夫々參拜として參内せり又同四時よりは夕の御祭典をも執行せられたり次で二重橋正門は御式濟まで開扉せりと

●觀櫻會の御準備　濱離宮御園の櫻花も追々咲染しに付聖上皇后兩陛下は御例に依り近日同離宮へ行幸啓在らせられ親王同妃殿下を初め各大臣以下百官の人々及び各國公使幷に其夫人等を召させられ觀櫻の御宴を開かせ玉ふに付目下夫々の準備中なりと承る

●皇太子殿下　は過般英國より回航の軍艦吉野御一覽のため今四日御出門にて横須賀へ行啓在らせらるる由に承る

●小倉警視の巡視　警視廳第一部長小倉警視は九州地各縣の警察事務視察として伊東警部を隨へ一昨二日出發せしが往復の日數は二十間の豫定なりといふ

●石炭賣込契約破談　昨年北海道炭礦鐵道會社と堀基氏との間に取交はしたる契約書によれば堀氏の手にて本月一日より本年度内に夕張炭五萬噸を室蘭港より米國に輸出する筈にて尙ほ去る三月末日迄に同氏より金五萬七千圓を炭礦鐵道會社に收め夫より漸次

石炭を引取る都合なりしも金なかりしよしなれば此契約破談に成りたりと

●定期米内氣配　期米の有樣は互に意地づくと成れば盛んなりしにも拘らず此頃は原料商賣の騰貴を來さゞるに比し殆んど同類は一時客冬に比し殆んど三倍表に過ぎず米國市場の景氣は追々回復して取引するを得るを以て弗々先づ持合の姿に見ゆ三倍表類の持合は花莚の注意を除くの外支那産に比し米國市場にては寄付に拘らず米國市場にては從來常の好況を呈し一昨年來非常の好況を呈し極高直を顯せしが其後米國市場から漸次安直に相場も漸次安直に相場も漸次安直に相場も漸次安直に比し殆んど三倍表に過ぎず米國市場の景氣は追々回復して取引するを得るを以て弗々先づ持合の姿に見ゆ三倍表類の持合は花莚の注意を加へ專ら外人の嗜好に拘らず米國市場にては從來常の好況を呈し一昨年來非常の好況を呈し極高直を顯せしが其後米國市場から漸次安直に相場も漸次安直に相場も漸次安直に比し殆んど三倍表に過ぎず米國市場の景氣は追々回復して取引するを得るを以て弗々先づ持合の姿に見ゆ三倍表類の持合は花莚の注意を加へ專ら外人の嗜好に拘らず米國市場にては從來常の好況を呈し一昨年來非常の好況を呈し極高直を顯せしが其後米國市場から漸次安直に相場も漸次安直に比し殆んど三倍表類は一時客冬